

科目	家族心理学	単位数	2
担当教員	相谷 登		
履修対象	臨床心理学科3年秋学期		
目的	現代の社会は、様々な問題や危機に直面している。家族の心理的構造の理解をはじめ、家族を取り巻く諸問題について心理学的見地から紹介する。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 (1) 自分自身が所属する家族について考える。 (2) テレビや新聞等に掲載される少子化問題や児童虐待等の家族をめぐる報道番組や新聞記事を読む。 「思考・判断」 (1) 離婚等は特別な家族や夫婦にのみ生ずるのではないことを正しく理解する。 (2) 児童虐待等の家族をめぐる暴力行為を見極める素養を持つ。 「知識・理解」 (1) 目指すべき家族像や家族のあるべき姿を説明できる。 (2) わが国の家族をめぐる諸問題について、簡単に説明できるようになる。		
授業計画			
1	本講義の進め方、講義内容、参考文献等について説明する。		
2	家族の定義、わが国の家族観の変遷、更には現代社会が抱える家族に関する諸問題について考えていく。		
3	臨床心理学における個人療法と家族療法の差異とその特徴について説明する。		
4	家族システム理論の基礎について説明する。		
5	家族システム理論を具体的な事例を通して見ていく。また、家族療法の基礎を説明する。		
6	家族関係理解に関するアセスメントのための理論と方法を説明する。		
7	集団としての家族心理的アプローチのいくつかと家族療法について説明する。		
8	家族周期という考え方をはじめ、夫婦として共に歩んで行く心理的变化を考えていく。		
9	対人魅力の形成過程をはじめ好意と愛情の心理的差異、更にはより良い夫婦とは何かを見ていく。		
10	夫婦と子どもの関係について、母親はもとより父親の役割はいかなるものなのかを子どもの発達観の観点から見ていく。		
11	ヒトが同世代のヒトとの対人関係を学習するのは、きょうだいからである。その関係性と一人っ子の問題をも見ていく。		
12	子どもから親への暴力行為である家族内暴力と高齢者虐待について説明する。		
13	児童虐待について、その概要とわが国における歴史的変遷および現代の特徴とその問題点を説明する。		
14	夫婦関係をはじめ恋人関係間に生じるドメスティック・バイオレンスについて説明する。		
15	まとめ／全体の概観と今後の家族心理学の課題および展望について説明する。		
授業形態	講義形式で行う。必要に応じて、資料・レジュメを配布する。また、必要に応じてDVD等の視聴覚教材を使用する。パワーポイントを使用するが、各自が要約筆記に努めるようにすること。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
家族心理学入門	(編)岡堂 哲雄	培風館	2,400円＋税金
参考書	「家族の心理」 平木典子・中釜洋子(共著) サイエンス社 「家族臨床心理学の基礎」 村尾泰弘(著) 北樹出版		
評価方法	講義中に課すレポートおよび最終に実施する試験で、総合的に評価する。		
留意点	講義内容は、身近な事象が多いので、自らの家族と照らし合わせて、積極的に思考を働かせて欲しい。 なお、他の受講生に迷惑を及ぼすような態度や行動は慎むこと。目に余る者は、退室を命じることがあるので注意されたい。		
準備学習	特別な準備は必要ないが、講義で扱われた課題や内容について、自分自身が所属する家族ではどのようなになっているのかを適宜考えて欲しいので、必ず復習は履行されたい。		
備考		No.	PY521009